



3月16日23時36分、福島沖でM7・4、最大震度6強、長周期地震動階級4の地震がありました。今回の地震で被災された皆様は、心からお見舞い申し上げます。

弊社では、直ちに船舶動静把握システム上で運航船舶の動静を確認し、影響範囲にある船舶に異常がないことを確認のうえ、社内へ速報。そして社用スマホの安否確認アプリで、本人・家族・家屋に被害なし、出版社にチェックを入れて回

善意に包まれ輝き取り戻す

答するとともに、同アプリ上で部内スタッフに異常がないことを確認いたしました。

東日本大震災は平日の昼間に発災したため、大半の職員は勤務中であり、個別に安否確認が必要な職員は公休者や出張者など限られた人数でしたが、携帯電話、固定電話の通信障害や

地震調査研究本部地震調査委員会は、今回の福島沖地震の評価の中で「今後長期にわたって東北地方太平洋沖地震の余震域や内陸を

含むその周辺で規模の大きな地震が発生し、強い揺れや高い津波に見舞われる可能性がある」と注意を喚起しております。

気づかされた人間の強さ

地域住民の方々は例外なく被災者であり、二本部職員も、ご家族・ご親族・友人・知人を亡くされた方や、家財に大きな被害を被った被災者でした。ガス・電気・水道が使えない状況下で、津波により運ばれた泥にまみれ、肩を落とし、恐怖のなかで、人間の強さと繁栄の理由に気づかされたことは、海上保安官としての非日常的な経験のなかでも、際立って大切なものとなっております。

は、国内ばかりか、世界中からの支援と励ましが寄せられ、身近な被災者の皆さんが、そうした善意に包まれていく中で、極めて短期間に見違えるように輝きを取り戻したことを鮮明に覚えていきます。災害の悲惨な状況のなかで、人間の強さと繁栄の理由に気づかされたことは、海上保安官としての非日常的な経験のなかでも、際立って大切なものとなっております。

幅輦により、最終的な安否確認結果が判明したのはかなり時間が経ってからでしたが、今回の地震で、地震動静把握システムや安否確認アプリのような便利なツールが普及している現状は、東日本大震災当時とは隔世の感があります。

3月17日、文部科学省の東日本大震災の発災後、被災者にとつて唯一の光は、海上保安協会のホームページに掲載してま

るだろうという不合理な期待感を抱いてしまいがちですが、今回の地震で、地震活動は継続的に活発であり、依然として十分な事前準備と覚悟が必要であることが明らかになりました。

被災者にとつて唯一の光は、海上保安協会のホームページに掲載してま

(元第二管区警備救難部長 近藤悦広)

× ×

本連載と、コロナ禍により中止となった「2020海上保安フォーラム」の震災対応に関する発表資料